



バタンバン放送局 11 月度ゲスト DJ チャン・トラーさん



詩を朗読するバタンバン放送局専属 DJ テリー

第 2 2 回 (バタンバン: 1 1 月 3 日, バンテアイミエンチャイ 1 1 月 4 日)

バタンバンの放送局には新ゲスト DJ のチャン・トラーさんが出演。番組に非常に興味を持ってくださっており、タイ国境の町、ポイペトから毎回はるばる 2 時間かけて来てくださる。

朗読された手紙より 1 通

両親へ

EMERGENCY に入院してからずっと連絡がとれずにごめんなさい。お父さん、お母さん、元気にしていますか？僕は元気にしています。心配されなくても大丈夫です。障害者だけど、生きている限り、いつも希望を胸に何事にも果敢に挑戦していきます。人生を価値あるものにします。最後に、両親の健康と幸福を願って。

バタンバン州 ヴァン・ニャン

朗読された詩より 1 篇

作者：バンテアイミエンチェイ州 ヒ・イエ

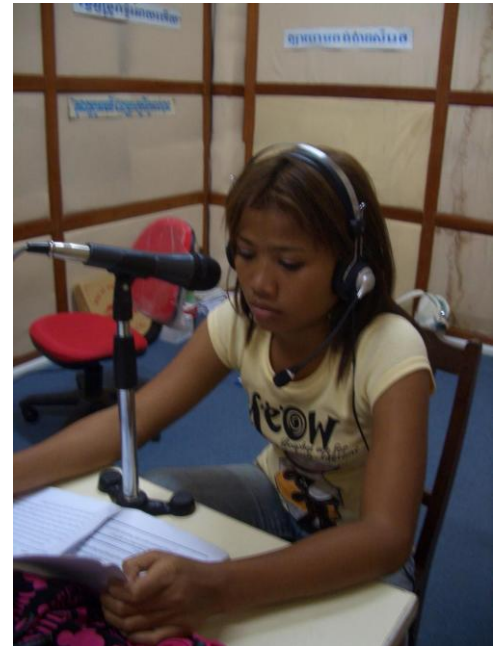
障害のある人生は悲しい
体が不自由なためにどれだけ苦勞をすることか
地雷の被害に遭えば
辛くて辛くて仕方がない
僕は障害者を持っていないが
障害を持つ皆さんの気持ちを理解したい
そして応援したい
障害はあるかもしれないが
逆境を乗り越えよう
希望を失わないで

手や足を失う
外見が完全ではなくなり
冷たい目が体を刺す
しっかり前を向いて
楽しく生きよう
尊敬に値する障害者もたくさんいる
僕のほうが励まされる
皆さんもがんばろう
がんばれば必ず
明るい明日が待っている

インタビュー

バットバン (FM103.25MHz) : 11月度バットバン放送局ゲストDJ チャン・トラーさん (18歳, ポリオ患者) (生インタビュー)

9歳のときにポリオ（小児麻痺）を発症しました。そして左足が不自由になりました。それから学校へ通うのが困難になり、小学校5年生で勉強をやめました。その後は家にずっといて、母親の家事の手伝いや仕事の手伝いをしていました。私は最近までCVDというバットバンのNGOで縫製の技術を4ヶ月に渡って勉強してきました。そしてつい先日、そのコースを修了しました。今現在、タイ国境の町であり、実家のあるポイペトで習得したばかりの技術を使って働いています。最後に、番組をお聴きの障害者の皆さん、強く生きましょう！体に障害はありますが、そんなことどうってことはありません。なぜなら健全な心があるからです。それと、障害者を支援するNGOは探せば見つかります。あきらめないで、ご自分の未来、ご家族の皆様のために頑張りましょう。希望を持って、最後まであきらめなければ必ず成功すると思います。そしてリスナーの皆さん、障害者への差別はやめてください。私たちはそんなものでなく、皆さんの温かい言葉を待っています。



バンテアイミエンチェイ (FM96.5MHz) : CVD (Cambodian Vision in Development)

※第7回放送内容と同じ

朗読された手紙より1通

地雷や不発弾がたくさん埋まっている地域に住んでいる皆さんへ

番組をお聴きの皆さん、特に障害者の皆さん、こんにちは！皆さん元気になっていますか？僕は地雷・不発弾について皆さんに注意していただきたくてこの手紙を書いています。未だにカンボジア国内にはたくさんの地雷や不発弾が埋まっており、皆さんもいつ被害に遭うかも分かりません。地雷・不発弾は爆発すれば皆さんを傷つけ、時には死に至らせることもあります。だから皆さん、地雷や不発弾を発見した時は絶対に触れないで下さい。そしてすぐに村長か地雷撤去団体に通報してください。そして、その場所に手作りでも良いですから地雷があることを示す標識を立ててください。

バタンバン州コムリエン郡 ケオ・スアン

朗読された詩より1篇

題名：障害者のみんな頑張ろう 作者：バタンバン州ソンプールン郡 モーム・チョーム

障害を持つ皆さん

僕はいつも皆さんのことが気になる

あきらめないで

仕事や勉強に精を出そう

そうすれば必ず幸せになれる

昔と違うこと

それは支援NGOが多いこと

皆さんは運が良い

昔は頑張りたいくても

手段がなかったのだ

NGOの助けを受けて努力すれば

仕事に結びつく技術を習得できる

TV修理やバイク修理

縫製や理髪など

様々なことが学べる

それも無料でだ

NGOの力をかりて頑張ろう

職業技術があるかないかは

あなたの人生、あなたの家族の人生を

を大きく左右する

技術があるだけで

素晴らしい日々が手に入るのだ

さあ、時間を無駄にするのはもうやめよう

今日から出発しよう

そして成功して僕を励ましてくれ

インタビュー：CWARS (Cambodian War Amputees Rehabilitation Society)

※第10回放送内容と同じ

第24回 (バットンバン: 11月17日, バンテアイミエンチャイ 11月18日)

今回の放送でバットンバン放送局ゲストDJチャン・トラーさん、バンテアイミエンチェイ放送局ゲストDJヨウ・ナットさんの出演がそれぞれ最後となった。ポリオに負けず挑戦しつづける18才のトラーさん、そして天涯孤独の身になっても明るく前向きに生きるナットさん。「彼らのように生きたい」と僕自身も感化された。明るいトークでどれだけのリスナーを元気付けてきたことだろうか。

朗読された手紙より1通

皆さんお元気ですか？特に私の障害者の友人たち、元気になっていますか？聴いてくれていると嬉しいです。私は内戦で悲しくも汚染されてしまったカンボジアについて語りたいです。内戦やポルポト支配は多くの家族をばらばらに引き裂きました。そして埋められた地雷で多くの方が手を奪われ、足を破壊され、目を失いました。そして残念なことにこうして障害者となった人々には多くの試練が待ち構えています。とくに障害者に対する差別があるのは同じカンボジア人として本当に悲しい。友達が本当にかわいそう。皆さんの中で障害者に対する偏見を持っている方、蔑んでいる方、どうかやめて下さい。みんな平等、同じ人間ではありませんか。人として、困っている障害者の方には手を差し伸べてあげましょう。その瞬間新しい友達ができますよ。

バンテアイミエンチェイ州 モア・ポウ

インタビュー

コット・カートさん (43歳, 地雷被害者)

私の出身はバットンバン州のバナン郡です。まだ兵士だった1990年、戦闘中に地雷を踏んでしまい、左足を失いました。すぐにソビエト病院に搬送され、そのまま3ヶ月ほど入院しました。事故に遭ってからは軍で働くことをやめました。それで、農業を始めました。でも徐々に家庭が貧しくなっていき、生活に行き詰まりました。どうしようかと考え抜き、タイに出稼ぎに行くことを決めました。地主のもとで働き、とうもろこしや豆や、その他いろいろなものを栽培しました。本当にきつい作業でした。賃金は1日働いて100パーツから150パーツと十分ではありませんでしたが、そのときは続けるよりほかありませんでした。障害者のできる仕事には限りがあり、選べる状況ではなかったからです。それでもカンボジアでの日雇いの一般的な賃金とさほど変わらなかったのも、いっそのことカンボジアに帰ることにしました。帰ってから、ワールドビジョンというNGOが障害者に職業訓練を提供しているということを知り、私もその施設で1年半、溶接を勉強させてもらいました。そしてありがたいことに、そのままワールドビジョンで、今度は溶接技術の教師として4年間働かせてもらいました。残念なことに4年目にその施設はなくなってしまったのですが、その時にCVDという同じく障害者へ職業訓練を提供するNGOの施設に就職させてもらうことになりました。そういうわけで現在までCVDで溶接技術の教師をしています。障害者の皆さん、何事にもくじけしないで、勇敢に挑戦していきましょう。努力はあなたを絶対に裏切りません。

